

行政視察報告書

令和7年3月11日

会派名 江政クラブ
会派代表者 長尾 光春

(参加者：長尾光春、中野裕二)
行政視察の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和7年2月4日(火)
視察時間	午前10時00分～午前11時30分
視察先	岐阜県美濃加茂市(建設水道部土木課)
視察項目	ヤギさん除草隊の事業に対する調査 ・事業内容 ・事業費用 ・現場での運用ルール ・事業の実施により発生した問題点とその解決策 ・事業の実施による副次効果

行政視察報告書

年月日	令和7年2月4日（火）
視察時間	午前10時00分～午前11時30分
視察先	岐阜県美濃加茂市（建設水道部土木課）
視察項目	ヤギさん除草隊の事業に対する調査 ・事業内容 ・事業費用 ・現場での運用ルール ・事業の実施により発生した問題点とその解決策 ・事業の実施による副次効果
■目的 江南市では、毎年、市有地、公園、道路等の除草作業に多額の費用が発生している。 この費用の内容は、「草刈り」「トラックへの積み込み」「運搬」「処分」に係る人件費である。このコストの削減を模索する中で、視察先において、民間企業が所有するヤギを活用した除草作業（ヤギさん除草隊）の事業を実施していることから、事業内容や事業費用について調査・研究を行い、江南市においても同様の取組に対する実現可能性の検討を行う。	
■内容 美濃加茂市ではさくら広場緑地にある、ため池周辺の斜面にたくさんの桜が植えられているが、この斜面の除草作業を行うために多額の除草費用が発生していた。 また、除草作業の対象地が斜面であることから、作業効率が悪く、自治体として対応に苦慮している状況であった。そのような状況の中、民間企業から同企業が所有するヤギを活用した除草作業の実施について提案を受け、平成23年度に実証実験を行い、効果があるとの評価に至り、平成24年度からヤギを活用した除草作業（ヤギさん除草隊）の事業を開始し、今年で13年目を迎える継続事業であることがわかった。 また、開始当初はさくら広場緑地だけであったが、対象地を最大8箇所に広げる（現在は6箇所）とともに、平成25年度には岐阜大学を交えた産官学連携による「ヤギによる維持管理方法を確立するための調査・研究」に対する覚書を締結し、さまざまな実証実験やデータ取得、利用・管理手法の検討が実施されていた。 人による除草作業と、ヤギを利用した除草作業を比較した場合、ヤギを利用した場合は、除草作業時に発生する騒音が軽減されるが、除草速度は遅く、局所的な除草作業には向いていないが、美しい景観を継続的に維持しつづけることが可能であ	

るとの評価がされていた。大規模な範囲に対する除草を行う場合、人手での実施の場合は、人と機械の数を容易に追加投入できるが、ヤギを利用した除草の場合、ヤギの数に限界があることから、人手による除草が好ましいが、ある程度の範囲かつ、人が作業しにくい傾斜地などではヤギによる除草の方が好ましいとの実証結果も出ていることがわかった。

現在の地方自治体では、少子高齢化が進んでおり、人による除草作業の担い手が今後不足してくる可能性があることから、継続的にヤギによる除草を実施し、自治体として公園や市有地の景観を保全できるようにすることは大変有意義であるとともに、自治体の問題解決に役立つと評価されていた。

美濃加茂市では、現在ヤギを活用した除草作業は対象面積が約3.4haほどあり、4月～11月の期間で、約65日間ヤギ20頭が午前8時に対象地に入り、午後3時に帰宅する運用が行われており、ヤギの運搬は民間事業者が実施していた。この除草作業を人により実施した場合、年間約650万円の経費がかかる一方、ヤギを利用した除草の場合、年間約450万円の経費であり、約200万円の経費削減になっていた。

またSDGsの4、7、11、13、15に該当する事業であると評価がされていた。（以下、評価内容）

「4：質の高い教育をみんなに」では幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校、大学と、ヤギさん除草隊はすべての学生と関わりがあり、ヤギさん除草隊を通じて、多種多様との共生について考える力を身に付けるとともに、豊かな教育環境を提供する。

「11：住み続けられるまちづくりを」では、ヤギさん除草隊の本拠地であるさくら広場は「都市公園」として位置づけられており、公園の環境がヤギさん除草隊のおかげで保たれていることから、質の高い公園を提供することができるため、ずっと住み続けることができるまちづくりの担い手となっている。

地球環境保全の観点から、「7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「13：気候変動に具体的な対策を」「15：陸の豊かさを守ろう」では、ヤギさんによる除草によりCO₂排出量の削減が可能。また除草作業の困難な場所に散布する除草剤などの必要もないことから地球環境保全にも貢献している。

今後の展開としては、ヤギとともに里山の保全をし、ヤギに関連した特産品の生産、販売、ヤギを起点としたまちおこし、ヤギとふれあうことによる、子どもたちへの命の教育、地域イベントへのヤギの活用など、多角的にヤギが日常の中にいるまちづくりを行っていきたいとの考えであることがわかった。

ヤギを活用した除草作業を行うにあたり、美濃加茂市では、ヤギの放牧地の対象地の周囲を木製の柵で囲み、公園等を利用する市民と交わらない状況をつくっているとのことであった。（民間事業者からの提案を採用）

柵が壊れた場合、市の負担で修繕を行うが、壊れる頻度が少なく、問題にはなっていないとのこと。

また、市民が入らない傾斜地等の除草であることから、ヤギから排出される尿やフンについては、掃除等は行わず、植樹されているさくらの木の肥料としていた。

ヤギを活用した除草作業を長期的に実施しているが、市民からの苦情や特筆すべき事故や問題は発生しておらず、また市民から好意的な評価が得られているとのことであった。

美濃加茂市では、除草作業にかかる年間の経費が約5000万円であるが、その内、ヤギを使った除草作業にかかる経費は約1000万円であるとのことであった。

ヤギを使った除草作業の期間が限定的であることから、同事業を直営で実施することはせず、民間事業者を活用し必要な期間のみ除草作業に利用する運用を行っており、今後も民間事業者が実施可能であれば、事業を継続実施していく方針であることがわかった。

■所感

今回視察を行った美濃加茂市では、人が実施しづらい斜面の除草作業に苦慮しているところに、同市内に事業所がある民間企業からの提案により、ヤギさん除草隊事業を開始していたが、これは、日本全国すべての自治体で同様の問題があり、除草作業にかかる経費の削減には大きな関心がある内容であることがわかりました。

江南市内では、現在、酪農（牛、豚、鳥）を生業とする事業者は存在していないが、ヤギを飼育している団体や、企業があることがわかっていることから、将来的に美濃加茂市と同様の事業を実施し、除草作業にかかる経費の削減につなげることが可能になると考えられる。

SDGsの観点からもとても有効な事業であることから、SDGs未来都市として認定されている江南市としては、積極的に同事業の取組を調査・研究し、できるだけ早い時点で、事業を開始すべきであると認識しました。

議会からも同事業について、市当局へ情報提供を行うとともに、事業展開に向け、働きかけを行っていきたいと考える。